



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行：横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷 2-18-4 年4回発行（1月 4月 7月 11月）

祝・ナショナルデー

横浜スペイン協会会長 下山利明

今年も恒例になっている、スペイン大使館主催のナショナルデーレセプションにお招き頂き、協会の代表として家内と出席して参りました。当日は天気にも恵まれ、大使館庭園スペースでのレセプションには絶好の屋外パーティー日和でした。出席者は例年より少し増えた印象で、国会議員、関係省庁の幹部、各国大使館、民間企業幹部、スペイン友好協会関係者、日本在住のスペイン国民など、数百人レベルでとても華やかな雰囲気でした。冒頭、スペイン国歌と日本国歌が演奏され、フィデル・センダゴルタ駐日スペイン大使、木原実防衛大臣、深澤陽一外務大臣政務官からそれぞれご挨拶がありました。スペインと日本は、幅広い分野での戦略パートナーであり、近年、その関係は益々、深まっていることを具体的なお話から



再認識し、当横浜スペイン協会として特に文化交流面でどのような貢献が出来るかという思いが頭をよぎりました。ご挨拶に続き平井卓也日本スペイン友好議員連盟会長による乾杯のご発声が行われ、歓談時間へ。当協会の名誉会長であるセンダゴルタ大使、サンツ文化参事官にご挨拶をさせて頂き、そして今回は、しばらくお目にかかれていなかった沢山のスペイン友好協会関係者とお話する機会を持って、近況等を語り合い情報交換をすることが出来ました。スペインを愛する志を同じくする同志との再会を通じて、交流活動を更に推進していこうというモチベーションが大いに上がります。これからも、各方面のスペイン関係者と交流を持ち、コラボレーションしながら当協会の活動を盛り上げて行きたいと思います。

最後に、大使館訪問の際には、毎度のことながら、当協会が創立15周年(2005)と30周年(2020)記念に庭園に寄贈させて頂いた横浜緋桜が順調に育っているのを忘れずに確認しました。



↑山形スペイン友好協会
会長・武田昇氏



↑日本スペイン協会常務理事・森和重氏
廣康好美氏、荻内勝之氏



↑名古屋スペイン
日本スペイン協会代表理事・木下登氏 協会・相澤一中氏

↑日本遺産四国三十三所礼所会・岡村遍導氏、問屋正勝氏、在高松スペイン国名誉領事・松田清宏氏

2023年度後期スペイン語教室

後期講座：2023年10月1日～2024年3月31日

創立後30年以上活動を続ける横浜スペイン協会が運営する歴史あるスペイン語教室です。
当協会のスペイン語教室はスペイン語の習得だけでなく、スペインの文化にも幅広い知識や理解を深めることを目指しています。

1) お知らせ

- ・前期は4月、後期は10月に開講しますが、**入会は随時できます**。
- ・最初に見学を希望される方は、3教室、3回まで**無料で見学**ができます。
- ・クラスのレベルは凡その目安です。受講される前には無料見学で体験されることをお勧めします。
- ・**各クラスの定員は一部を除いて原則15名です**。クラスに空きがあるかどうかはその都度ご確認ください。
- ・入門、初級クラスは日本人講師の指導でしっかり基礎を学び、中級以上は本場スペイン語ネイティブ講師が指導します。
- ・受講申込み及び受講費等の詳細については、後述3)「受講申込み及び受講費」をご覧ください。
- ・後期の日程は別掲載「2023年度後期スペイン語教室日程と教室一覧」をご覧ください。

2) 実施中のスペイン語教室

2-1) 横浜駅西口教室(かながわ県民センター会議室: 地図は後述「会場案内」を参照してください)

クラス名	レベル	項目	講座内容
1	フレシア	初級	授業日 講師 教科書 講座内容 第1.2.3 木曜日 10:30～12:00 中園竜之介先生 1.「基礎からレッスンはじめてのスペイン語」 2.「Lola Lago, detectiveシリーズ」—Por amor al arte 文法を一通り学んだ方を対象に、①ロールプレイ(場面を想定して会話)、 ②会話文を多く含んだ教材でリスニング・読解、③フリーディスカッション (ある議題について自由に議論を展開)を行います。
2	アサレア	初・中級	授業日 講師 教科書 講座内容 第1.2.3 水曜日 10:30～12:00 栗山由美子先生 La noticia de hoy [Edición revisada] 三修社 一応の文法を学んだ方を対象に、聞き取り練習、スペイン語圏の社会事情を扱った 記事の講読、様々な会話練習を通し、実際に使えるスペイン語を習得していきます。
3	セレソ	初・中級	授業日 講師 教科書 講座内容 第1.2.3 木曜日 10:30～12:00 山田るりこ先生 「スペイン語接続法 超入門 高垣 敏博」(NHK出版) 5月から接続法の学習に入ります。苦手意識を持たれる方が多い接続法ですが、 正しくアプローチすればそれほど手ごわい相手ではありません。
4	ハスミン	初・中級	授業日 講師 教科書 講座内容 第1・2・3月曜日 13:00～14:30 山田るりこ先生 「Plaza Mayor 2」 各課15問の作文を毎回2～3問ずつこなし、テキストが求める模範解答以外の表現 の可能性も探る(接続法の単元でも、接続法を使わない方法など)。 並行して会話テキスト「サヨナラ、棒読みスペイン語！」をベースにした会話練習。
5	アマポーラ	初・中級	授業日 講師 教科書 講座内容 第1・2・3月曜日 10:30～12:00 山田るり子先生 1.「極める！スペイン語接続法ドリル」白水社 2.短編小説「TOTTO CHAN (窓際のトットちゃん)」日本スペイン協会 接続法を集中的に学習します。 また短編小説の読解を通じて単語力・表現力をつけていきます。 これらを交互に進めていきます。

6	カメラア ＜授業内容変更＞	中級	授業日 講師 講座内容	第1・2・3月曜日 13:00～14:30 ビクトル先生 2023年後期より会話中心のクラスに変更。 日常使う言葉である程度会話することはできるが、より様々なシーンでより具体的に細かな内容の会話ができるようになることを目指す。例えば、スペインを旅行した時にホテルやレストランなどで自分の要望などを相手に的確に伝えることができるようになりたい方などにピッタリ。
7	クラベル	中級	授業日 講師 教科書 講座内容	第1・2・3 水曜日 13:00～14:30 ホアン・カルロス先生 「Nuevo Español en Marcha 3 B1」、物語読本「Cuentos,Cuentos,Cuentos」 基本的なスペイン語の文法を一通り終了しもう一段階上のスペイン語を目指すクラスです。 第1、第2水曜日:「Nuevo Español en Marcha 3 B1」及び練習問題のプリント 第3水曜日:近況をスペイン語で発表した後、スペイン語の物語を講読。 授業はスペイン語で行われます。
8	ビオレタ	中・上級	授業日 講師 教科書 講座内容	第1・2・3 水曜日 10:30～12:00 ビクトル先生 「Curso de Lectura Conversación y Redacción」SGEL社 会話中心の授業を展開しながら、芸術・文学・歴史・社会・伝統・習慣などを幅広く学びます。 授業はスペイン語で行われます。
9	ヒラソル	中・上級	授業日 講師 講座内容	第1・2・3 水曜日 10:30～12:00 ホアン・カルロス先生 第1水曜日 映画鑑賞と台本講読 「Todo sobre mi madre」アルモドバル監督作品 第2、3水曜日 スペイン語の小説講読「Soldados de Salamina」第2部(ハビエル・セルカス) 第3週の前半は受講者の一人がテーマを選んでスピーチを行いその後皆で意見交換をし視聴と講読、会話でスペイン語力を深めます。授業はスペイン語で行われます。
10	チャルラ	上級	授業日 講師 講座内容	第4月曜日 10:30～12:00(開講日は別掲載「教室一覧表」をご覧ください) ビクトル先生 スペイン語の新聞・雑誌等から政治、経済、社会、文化、その他の記事を取り上げ、それに関するディスカッションを通じてスペイン語力の向上を図ることを目標にします。

2-2) 横浜駅東口教室(スカイメナー会議室)

11	マルガリタ ＜2023年前期開講＞	入門	授業日 講師 教科書 講座内容	第1.2.3 金曜日 18:30～20:00 中園竜之介先生 「基礎からレッスンはじめてのスペイン語」 2023年4月開講の新講座です。初めてスペイン語を学習される方を対象としています。
12	マグノリア	初級	授業日 講師 教科書 講座内容	第1.2.3 木曜日 10:30～12:00 栗山由美子先生 「Entre Amigos 2(統合スペイン語コース中級) 朝日出版社」 過去形を学習中。その後現在完了、未来完了と学習を進めます。 また、テキスト使用の他に様々な状況を設定して会話練習を重ねます。

2-3) 横浜海岸通り教室 (波止場会館会議室)

13	波止場会館 教室所在地: 横浜市中区海岸通り1-1			
	クラス名	レベル	項目	講座内容
	新聞、雑誌を読むクラス	上級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料	第4土曜日 10:15～11:45 栗山由美子先生 スペインの新聞・"El País"の記事を主に使用。 スペインとラテンアメリカ情勢を中心にスペインから見た世界の情勢を勉強します。 (討論は日本語で行われます。) 記事の内容を理解するには上級程度の語学知識が必要です。 ¥1,500/回

3) 受講申込み受講費他

- ① 各教室定員は、原則として15名。空席のある場合は会員優先で随時入会可。 **入会金不要**
- ② **受講料:各教室(除くマルガリタ) ¥1,500/回 半期分前納(前期15回、後期18回)【マルガリタクラスは ¥2,000/回】**
 - ・横浜スペイン協会員以外の方は別途事務費2,000円(各期ごと)が必要です(協会員は無料)。
 - ・期の途中から受講される場合は、受講日からの日割り計算になります。
- ③使用言語:外国人講師は日本語も堪能ですが、教室では生きたスペイン語が中心です。

・お問い合わせ、お申し込み先: 下記のメールアドレスにご連絡をお願い致します。

E-mailアドレス: spanish_class@yokohama-spain.jp

(spanishとclassの間にアンダーバーが入ります)

●スペイン語クラス

◆「新聞雑誌をスペイン語で読むクラス」特別公開講座のご報告

2023年6月24日 波止場会館 1F

東京外国語大学の特任教授 Clara Miki Kondo Pérez 先生をお迎えして、「文法を恐れるな！易しそうでそれほど易しくない、難しそうでそれほど難しくない！」という標題で開催されました。私は横で通訳していて、先生のハッキリとした発声と言葉遣い、大振りジェスチャーを交えた舞台俳優のようなお話に圧倒されました。ご参加下さった方々からは、先生の軽妙なお話しにぶりに大変魅了された、との感想が寄せられました。



まず、実は易しくない例として、定冠詞と不定冠詞の使い分け、普通単数で使われる名詞 (ropa, comida など)、指示詞等々、普段見落としがちな点が指摘されました。難しいのは接続法。でも極限られた項目以外はそれほど難しくない。要注意の一例は譲歩文。Aunque yo estoy/esté cansado, voy al cine. 直説法だと、実際疲れている。しかし接続法だと「たとえ疲れているとしても」と言うことで、これは「私が疲れているかどうかは問題でない」のだから、「行くことへの障害は何もない」。条件が排除されるのだ、という解説に、これまで聞いたことの無い観点からの説明が新鮮に感じられた、との声がありました。

今回の講座の一番のポイントは、柔軟な思考を持ち、文法の構造ばかりに目を向けず、文脈を適切に理解し、話者が何を意図しているのかを把握することが大切ということでした。教える側としては、しっかり覚えて欲しいという思いから「〇〇形の活用を教えてください！」と動詞にポイントを置きがちです。そうだ！今後は Clara 先生のご指摘にならない、生徒の皆さんがもっと文章全体を理解する教え方をしてみよう！と考える良い切っ掛けとなりました。(栗山由美子)

◆2023年文法講座のご報告

今年も6月から7月にかけて、山田先生による文法講座が開催されました。今回のテーマは、関係詞 (cuyo, el cual 含む) と、単人称文・非人称文 (3人称単数でのみ使用される動詞や不特定主語など) について、各2回の講座で、12名が受講しました。分かっているようで見過ごしがちなテーマを、わかりやすいレジメとたくさんの文例集を用意していただき、画面共有しながら丁寧にご説明いただきました。作っていただいた資料が多いので、ほぼ毎回時間が足りなくなり、先生は大変だったのではないのでしょうか。毎回の講座の後には、先生よりクラスメオが送られてきますので、復習もできました。ZOOMを使った講座も回を重ねるごとにブラッシュアップされ、円滑に運営され内容も濃くなってきたような気がします。わがまま言わせてもらえば、双方向の時間がもう少しあればと思いました。(臼井慎一)

◆第13回夏期スペイン語文化講座の開催

夏期文化講座が8月2日、4日、7日の3回に渡り開催されました。講師は Juan Carlos 先生 (スペインの世界遺産紹介) と Victor 先生 (スペインの方言、ラテンアメリカの征服者たち)。初日の「世界遺産」では、数ある世界遺産の中からバルセロナのガウディ建築とサラマンカの遺跡が選ばれました。ガウディ建築では、カサ・ミラ、カサ・バトリョ、グエル公園の3つを紹介。



カサ・ミラはゆがんだ曲線をモチーフに石を積み上げた独特の形の住宅、カサ・バトリョは色とりどりのガラスモザイクが特徴、グエル公園はトカゲの噴水とギリシア神殿の柱が名物で、ユニークなガウディ作品を知る絶好の機会となりました。サラマンカでは、スペイン最古のサラマンカ大学や新旧カテドラルなどが紹介されました。Juan Carlos 先生は本人も映ったスライドを駆使して軽妙な語り口で両地域の見所を解説していました。

2日目の「スペインの方言」では、Victor 先生からガリシア語、カタルーニャ語、バスク語などスペイン各地に残る土着言語の由来と現状の説明がありました。特に起源が謎のバスク語については、ラテン語由来の他言語とは全く違う歴史背景を You Tube のバスク語の歌を使うなどして紹介。最終日の「ラテンアメリカの征服者たち」では、コルテスとピサロの2人に焦点が当てられました。武勇と知恵でのし上がっていくコルテスがメキシコのアステカ帝国を征服する経緯を、またピサロについては、インカ皇帝をだまし討ちして金銀を奪い、帝国を滅ぼしていく過程をそれぞれわかりやすくスライドを使って紹介。質疑応答では、これら征服者の功罪についても議論が交わされました。(宿野部雅美)

●スペイン・サロン

◆オペラ「ドン・カルロ」のスペイン史

2023年7月7日(金) 波止場会館 1F

講演者：西川和子(スペイン史著述家)

午後、オペラ好きの私はいそいそと波止場会館に出かけた。AIYESのスペイン・サロンで表題の講演があるからだ。着いたら1階ホールの会場はほぼ満員。なんとか中央最後部の席に座るとほどなく、特許庁出身という異色のスペイン史家西川和子氏の講演が始まった。オペラは Siglo de Oro 絶頂期の王フェリペ2世の初婚の妻の遺児ドン・カルロ王子が父王に許婚を奪われたことに始まる悲劇だが、私の大好きな力強い男性二重唱(友情の動機)や魅力的なアリアが多いベルディ中期の傑作である。話は主人公周辺の系図の絵解きから始まったが、妻の死による父王の4回の結婚がみな葡・英・仏等の王家の娘との政略結婚であるなど大変複雑で、初見ではとても頭に入らない。しかし「父王はこの結婚時32歳と若かった。悲劇の主人公であるカルロは実は醜男で感情に走る病気がちの若者だった。父王の3番目の妻となった継母は仏ヴァロア朝の王女で150人もの女官を引連れてスペインに来た。重要な脇役エボリ公女は有力貴族メンドーサ家の令嬢であった。」など、何度公演に通ったとしても知りえない解説には驚きの連続であった。帰宅後の復習で「王子が赴任を願ったフランドル地方(当時スペイン領)は父王の新教弾圧のためのちに独立に至ったこと、初演時の仏語5幕版の上演時間が長すぎたため4幕の改訂版が生まれ、その後イタリア語版もできて近年は各種の上演がある」ことも分かり、実に有意義な講演だった。10月の二期会公演が楽しみだ。講師と関係者の皆さんにありがとう。(佐竹信一)



<次回のスペイン・サロン>

3月に、早稲田大学名誉教授大高保二郎先生の講演会を予定しております。

詳細は12月にHPでご案内いたします。

※ゴヤの人間性を中心に『ゴヤの手紙』をとおして作品を絡めながら、人間と芸術の解きがたい関係を語る事ができればと思います。(大高保二郎)

『ゴヤの手紙』…大高保二郎・松原典子 編訳 (上・下 岩波文庫 2021年)

●スペインサークル

◆旅でスペインを識ろう会

①< SAS(スカンジナビア航空)で行くスペイン絵画の旅>

2023年7月10日(月)かながわ県民センター709号室

講演者：牧瀬 貢氏 パソコン助手：吉田美紀子さん

1. AVE (新幹線の初乗りマドリッド〜コルドバ) 他 1700 km レンタカー移動)
2. グアダルキビル川 (Carmona, セビージャ、イザベルII世橋、コリア・デ・リオ、河口サン・ルーカル)
3. コロンブスが1492年8月2日に新大陸に向け出港した港の見学
4. Río Tinto 川の実態見学 <なぜ川の水が Tinto 色か? >
5. Ramón Jiménez “Platero y Yo” Moguer 記念館見学
6. ヒマワリ畑の景色取材 (Arcos de Frontera) 6月が満開
7. パラドール：①Carmona ②Arcos de Frontera ③ロンダ Nuevo 橋 ④Jaén
8. 白い家の村 (Mijas, Torremolinos, Frigiliana) 景色取材
9. Granada:1) ロルカの生地 (Fuente Vaqueros) 隠遁地 (Parque Lorca) 暗殺地 (Viznar) 訪問
2) Albayzín (Alhambra の景色取材 3) 王室礼拝堂
10. Alpu 街道 (Bubión-Capileira-Trevélez) 市村 修 画伯訪問他
11. Guadix (穴居都市)
12. Campo de Criptana (風車)
13. コペンハーゲン (人魚 Sirena) 他観光

※吉田美紀子さんによる、ロルカの「A las cinco de la tarde」の朗読。

いつにない素敵な「旅の会」でした。

②< 初心者のスペイン旅、マラガ〜ロンダ〜コルドバ〜バルセロナ〜モンセラート>

2023年9月11日(月)かながわ県民センター709号室

講演者：大戸正彦、尚美ご夫妻

3月、ロンダでの桜植樹をきっかけに駆け足で5都市を訪れた大戸ご夫妻は、各地で新鮮で、新たな発見がたくさんあったそうです。また何より、航空券、ホテル、レンタカー、美術館、RENFEの予約や現地でのインターネット対応など試行錯誤を繰り返しましたが、皆さんの参考になることもあるのではと考え、自らの体験談についてお話しをされました。皆さんは、実用的な知識をさらに深められたことと思います。

●会員からの投稿

2023年サンティアゴ巡礼の旅 (マドリッドの道)

私の最初のサンティアゴ巡礼は定年退職の翌年2007年でした。ピレネー山脈の東麓サン・ジャン・ピエ・ド・ポーの村から800km先のサンティアゴ・デ・コンポステーラまでのルートを単独で1月余りかけて歩きました。私は、過去16年間、コロナ禍中は除いて、毎年2〜3カ月間スペインに滞在して、いろいろなルートを歩き続けてきました。総距離は14300kmになり、これは東京と大阪の間を10回以上往復したことになります。巡礼は究極の個人的な活動であるがゆえに各人が真っ白なキャンバスに自分の好きな絵を描くようなものです。何を考え、何をするのか。それは永遠の課題ですが、私の場合は次のようなものです。

1. 何も考えないでひたすら歩くこと
2. 歩きながら自分の心と対話すること
3. 自然や歴史・文化に触れること
4. 世界中から来た人たちと出会うこと
5. 巡礼宿でボランティア活動をする
6. 交流のコーディネートをする
7. 郷土料理を楽しむこと
8. スペイン語でコミュニケーションすること
9. 祈ること

今年の巡礼はマドリッドを北上してセゴビア市、コカ城、シマンカス城を経てサアグンに至る「マドリッドの道」、サアグンからはレオン、アストルガやサリアを経由してサンティアゴ・デ・コンポステーラに至る「フランス人の道」のルートを取りました。4月13日マドリッド・オペラ広場に近いサンティアゴ教会を出発してサンティアゴに到着したのは5月16日、歩行距離は700kmでした。日本人のYさん、Iさん、Kさん、それにスペイン人のルイスさんも同行してくれました。サンティアゴ・デ・コンポステーラでは、州政府のシングル博士や現地通訳ガイドの星川さんとも再会して、一緒に食事を楽しみました。来春はバルセロナからサラゴサ経由でサンティアゴ・デ・コンポステーラに至る巡礼を考えています。そして最後の200kmは横浜スペイン協会の会員有志の方々と一緒に巡礼できることを願っています。(問屋正勝)



セゴビア水道橋 セゴビア県



シマンカス城とアマポーラ バジャドリード県

🌸 2024年さくら植樹関連活動について

2024年春、問屋さんがバルセロナからサンティアゴ・デ・コンポステーラに至る巡礼を計画されています。このタイミングに合わせて、さくら植樹と巡礼のイベントを当協会の公式行事として開催できるかを、現在検討する方向でおります。場所は過去3回、植樹を実施したレオン州ポンフェラーダ周辺で、時期は5月下旬を予定しています。諸々の条件が揃えば、現地でのイベント開催を実現させて、多くの協会メンバーに参加していただけるよう、今後検討して参ります。進捗状況は協会の会報、ホームページにてお知らせ致します。ご興味をお持ちのメンバーは、ぜひホームページを頻繁に覗いてください。(下山利明)



「オーセンティック・フラメンコ」～情熱の塊！これがフラメンコなんだ！

9月13日、東京市ヶ谷のインスティテュート・セルバンテス東京で開催された「オーセンティック・フラメンコ」公演を鑑賞しました。会場のオーディトリウムはこじんまりとしていて、本場のタブラオの雰囲気（実は本場を知りません…）その舞台上に、踊り2名、ギター2名、歌2名、パーカッション1名がのり、オープニングは全員で演奏です。その後、ギターソロ、カンテソロと続いて段々と会場が盛り上がります。いよいよ、女性フラメンコダンサーのパウラ・ロドリゲスが登場して踊りだすと、私は瞬きも呼吸もしなかったのかと思うほど、所謂くぎづけ状態でした。パウラさんの身体全て、表情はもちろん指先も、乱れる髪も、繊細な動きも激しい動きも、何もかもがまさに情熱の塊です。フラメンコは人間そのものを表すスペインの芸術といわれる所以を目の当たりにしました。その後の男性ダンサーのホセ・エル・エルカルビンの早すぎる足の動きは、人間がこんなことできるの？という速さの驚きで、これまたくぎづけ。



公演後のレセプションにも招待していただき、メンバーと触れ合うことも出来ました。写真をお願いすると、チャーミングなポーズ。なんて可愛い人。舞台上の殺気すら感じる踊る姿とのギャップ萌えです。体の芯にまで届くようなたくさんのパワーをいただきました。（下山綾子）

新会員紹介

芹沢 高 (Takashi Seryzawa)

茅ヶ崎市在住 2023年9月入会

スペイン旅行が好きでこれまで3度行きましたが、次に行くときはスペイン語でコミュニケーションしたいと思い、3年半程前からスペイン協会のスペイン語講座を受けています。加えて今後はスペインの歴史や文化もスペイン協会の活動を通じて学びたいと思っており、入会を希望します。宜しく願いいたします。

<<賛助会員各社の会員サービス内容>>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ 関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サングリア1杯無料

《編集後記》 “OS018”（オソじゅうはち）をご存知ですか？2019年から北海道の厚岸町一帯に出没して、家畜の乳牛を襲っていた雄のヒグマのコードネームです。そのOS018が今年の夏、とうとう駆除されたそうです。OS0はご存じの通りスペイン語で熊。被害が多発した標茶町（オソツバツ）の地名とも絡めての命名。18は足跡の幅が18cmもあったことから。年々熊が市街地で目撃されたというニュースが増えていますね。熊にとって山が住みにくい場所になってきたのでしょうか？ OS0=熊、覚えましたね。(A.S)

編集長/下山綾子 編集委員/ 岩田岳久 大戸正彦 下山利明 服部君江 原健三郎 松村清

投稿寄稿宛先 E-mail

全般 : info@yokohama-spain.jp
スペイン語教室: spanish_class@yokohama-spain.jp
スペイン・サロン: spain_salon@yokohama-spain.jp
ホームページ : http://www.yokohama-spain.jp

横浜スペイン協会